

独立行政法人福祉医療機構年度計画（令和元年度）

独立行政法人福祉医療機構は、平成 20 年 10 月に策定した経営理念「民間活動応援宣言」に基づき、国の政策効果が最大になるよう、地域の福祉と医療の向上を目指して、お客さまの目線に立ってお客さま満足を追求することにより、福祉と医療の民間活動を応援するため、適切な業務運営に努めることとする。

令和元年度の業務運営について、独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 31 条第 1 項の規定に基づき、独立行政法人福祉医療機構年度計画を、次のとおり定める。

平成 31 年 3 月 29 日

令和元年 7 月 2 日改正

令和 2 年 1 月 30 日改正

令和 2 年 2 月 14 日改正

独立行政法人福祉医療機構

理事長 中 村 裕 一

第 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 福祉医療貸付事業

福祉医療貸付事業については、民間の社会福祉施設及び医療関係施設等の整備に対し長期・固定・低利の資金を提供すること等により、施設開設者等の負担軽減を図り、福祉、介護及び医療サービスを安定的かつ効率的に提供する基盤整備に資するとともに、政策融資としての役割を踏まえ、地域における社会福祉施設及び医療関係施設等の維持及び存続を図ることを最優先としつつ、貸付債権の適正な管理を行うこととし、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(参考)

○福祉貸付事業

区 分	令和元事業年度
貸付契約額	216,600,000千円
資金交付額	201,500,000千円

○医療貸付事業

区 分	令和元事業年度
貸付契約額	114,200,000千円
資金交付額	115,300,000千円

- (1) 政策優先度に即して効果的かつ効率的な政策融資を行うため、利用者等に対し、融資方針の周知等に努め、当該方針に基づき事業を実施する。

また、政策融資の果たすべき役割を踏まえ、国の要請等に基づき、地域医療介護総合確保基金を活用した施設整備、耐震化整備、保育所等の整備に係る資金需要や、災害復旧、金融環境の変化に伴う経営悪化等の緊急時における資金需要に迅速かつ機動的に対応するなど、融資対象の重点化及び必要な融資枠の確保、融資条件の改善等により、増大する利用者ニーズへの対応を図る。

- (2) 政策融資を効果的かつ効率的に実施するため、福祉医療関係団体や地方公共団体に対する福祉医療貸付制度の周知・広報等を実施し、利用者等が福祉医療貸付制度に関する情報を得られるよう、地方公共団体等との連携強化を図る。

- (3) 利用者の円滑な資金調達に資するよう、民間金融機関と協調した融資を推進するため、これまでの融資や経営診断を通じて得た社会福祉施設及び医療関係施設等に関するノウハウやデータ等を民間金融機関へ積極的に情報提供するとともに、受託金融機関に対する業務研修会を実施する。

また、協調融資の一層の普及を図るため、協調融資金融機関数を拡大するとともに、民間金融機関関係団体との協調融資制度等についての意見交換及び民間金融機関や行政担当者が参加するセミナー等における周知・広報活動を行う。

- (4) 利用者サービスの向上を図るため、利用者に対する積極的かつ継続的な融資制度・商品の周知を行うとともに、融資相談会を開催する。特に、個別融資相談においては、円滑な施設経営と福祉医療サービスの質の向上に資する観点から、計画の早期段階からの確かな融資相談等に応じ、資金調達や償還計画の整合性だけでなく、長期にわたる安定経営が可能となるような多面的かつ専門的な支援・助言等を行う。

また、適正な審査手続を確保しつつ、契約や資金交付等の業務を迅速に実施する。

- (5) 融資後の貸付債権については、福祉医療経営指導事業と連携しつつ、一定額以上の残高を有する貸付先や融資時等に業況注視と指定された貸付先に対して、継続的に貸付先の事業の運営状況や財務状況等を把握するとともに、必要に応じてフォローアップ調査を実施するなど、債権区分別に適切な期中管理を行う。

また、災害で被災した社会福祉施設や医療施設等の貸付先に対し、元利金の返済猶予及び返済条件の変更等を適切に実施するなど、迅速かつきめ細かな対応を行う。

さらに、返済猶予した貸付先に対してもフォローアップ調査を実施するなどきめ細かな対応を行うとともに、平成28年熊本地震で被災した貸付先については、返済猶予期間が満了することから、必要に応じ、返済条件の変更等を適切

に実施する。

- (6) 債権悪化の未然防止を図るため、また、政策融資を行う機関としての健全性を確保する観点から、次の取組を行い、効果的・効率的な債権管理に努める。
- ①貸付債権のポートフォリオ分析及びモニタリング、リスク管理債権の発生要因等の分析を行い、分析結果を信用リスク分科会及び貸付関係部にフィードバックする。
 - ②正常先及び要注意先のうち今後リスク管理債権化する恐れのある貸付先（イエローゾーン先）については、定期的にモニタリングを実施し、必要に応じてフォローアップ調査や必要な支援を行う。
- (7) 政策融資の果たすべき役割を踏まえ、経営の悪化あるいは悪化が懸念される貸付先に対して、貸出条件緩和等の措置を講ずることにより経営を支援し、福祉・介護及び医療サービスの供給体制の維持を図るよう努める。
- また、き損する可能性が高い債権の管理の徹底を図るとともに、必要に応じて債権保全措置を的確に実施する。
- (8) 福祉医療貸付事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。
- ①政策融資を効果的かつ効率的に実施するため、福祉医療関係団体や地方公共団体に対する福祉医療貸付制度の周知・広報を100回以上実施する。
 - ②協調融資金融機関数について、13機関以上拡大する。
 - ③フォローアップ調査については、正常先及び要注意先のうち今後リスク管理債権化する恐れのある貸付先（イエローゾーン先）に係る実地調査等を55貸付先以上に実施する。

2 福祉医療経営指導事業

福祉医療経営指導事業については、民間の社会福祉施設及び医療関係施設等の経営者や地方公共団体、福祉医療関係団体等に対し、公的な立場から経営に関わる正確な情報や有益な知識を提供するセミナーを実施すること、あるいは機構が保有するノウハウを活用して経営指標の提供や経営状況を的確に診断することにより、福祉、介護及び医療サービスを安定的かつ効率的に提供できる施設の経営を直接・間接を問わず支援することが必要であり、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

- (1) セミナーについては、民間の社会福祉施設や医療関係施設等の健全な経営を支援するため、直近の報酬改定や医師の働き方改革等の内容を踏まえたテーマを設定するとともに、機構の独自性を発揮できる施設整備・経営管理に関する優良実践事例や政策動向の情報提供等を中心に内容の充実を図る。

(2) 施設経営者等が施設の経営状況を的確に把握することができるよう、経営状況に関する調査・分析を実施し、リサーチレポートの公表等による情報提供を行う。

また、特別養護老人ホーム、病院及びそれらを運営する法人の課題、経営状況を定期的に把握するため、経営動向調査を実施し、公表する。

(3) 経営診断については、福祉医療貸付事業と連携しつつ、経営の悪化あるいは悪化が懸念される施設のほか、制度改正等への対応や人事体系の構築などの個々の法人・施設が抱える課題の解決に重点を置いた診断・支援の手法・内容の充実を図る。

(4) 福祉医療経営指導事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

①セミナーについては、延べ受講者数を3,240人以上とする。

②施設の経営状況に関する調査・分析結果については、16件以上公表する。

③公表した結果がマスコミの記事・論文等に引用された回数を68回以上とする。

④経営診断については、延べ342件以上の診断を実施する。

3 社会福祉振興助成事業

社会福祉振興助成事業（以下「助成事業」という。）については、NPO等の非営利法人が行う民間の創意工夫ある活動や連携・ネットワーク化を図る活動、地域に密着したきめ細かな活動で、特に制度の谷間にいる要支援者を支える活動等に対して効果的な助成を行うことにより、地域共生社会の実現に寄与するとともに、助成先法人等が、助成期間内の活動だけにとどまらず、継続的に活動するための自立的運営を行う基盤を構築できるよう、事業実施の支援及び事後評価を適切かつ効果的に実施し、助成期間後の助成先法人等の活動の発展・充実にも資するよう、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(1) 助成事業の募集にあたっては、「ニッポン一億総活躍プラン」における地域共生社会の実現などの国が示した社会福祉政策を振興する上で必要なテーマに重点化し、国と協議の上、助成方針を定め、募集要領等に明記し、広く公表するとともに、NPO等の非営利法人が実施する分野横断的な事業や他団体と連携・協働する事業等を選定する。

(2) 助成金申請業務の効率化により、令和元年度分助成金申請書の受理から交付決定までの平均処理期間の短縮を図る。

なお、効率化にあたっては、「IT利活用に係る基本指針」（平成27年6月高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部策定）を踏まえることとする。

(3) 助成先法人等のコンプライアンス確保の観点から、ガバナンスの強化を図る

ため、助成先法人等への現地調査、指導等を行う。

また、助成期間後の助成先法人等の活動の発展・充実に資するよう、事後評価を行うとともに、事後評価結果については、助成先法人等に対し、適切にフィードバックした上で、次年度の募集要領等に反映させる。

- (4) 助成事業が円滑に実施され、助成先法人等が行う事業の継続・発展に繋がるよう、適切な相談・助言を行うとともに、助成効果の高い優れた助成事業等を分かりやすく可視化し、機構ホームページ等で広く周知する。
- (5) 助成事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。
- ①助成金申請業務の効率化により、助成金申請書の受理から交付決定までの平均処理期間を 22 日以内とする。
 - ②助成事業が対象とした利用者の満足度（4 段階評価のうち最高評価の率）を 60%以上とする。

4 退職手当共済事業

退職手当共済事業では、社会福祉施設等を経営する社会福祉法人等の相互扶助の精神に基づき、退職手当共済制度の安定的な運営を図ることにより、社会福祉施設等に従事する職員の処遇改善を図り、福祉人材の確保に資することが必要であり、以下の点に留意してその適正な実施に努める。

なお、当該事業における被共済職員数、退職手当金支給者数、退職手当金支給額及び単位掛金額を次のとおり見込む。

(参考)

区 分	令和元事業年度
4月1日現在の被共済職員数	876,430人
退職手当金支給者数	83,796人
退職手当金支給額	120,449,017千円
単 位 掛 金 額	44,500円

- (1) 退職手当金支給に係る事務処理の効率化を図ることにより、請求書の受付から給付までの平均処理期間の短縮を図る。
- (2) 利用者の手続面での利便性の向上及び負担の軽減を図るため、アンケート調査等により把握した利用者の意向を踏まえ、ICTの活用を進めるとともに、退職届作成システムの活用について周知し、利用の促進を図る。
- (3) 社会福祉施設等に従事する職員の処遇改善を図り、福祉人材の確保に資するため、都道府県等と連携し、退職手当共済制度を広く周知する。

(4) 退職手当共済事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

- ①請求書の受付から給付までの平均処理期間を42日以内とする。
- ②退職届作成システムの利用を促進し、利用割合を30%以上とする。

5 心身障害者扶養保険事業

心身障害者扶養保険事業（以下「扶養保険事業」という。）については、地方公共団体が実施する心身障害者扶養共済制度によって地方公共団体が加入者に対して負う共済責任を保険する事業に関する業務を安定的に運営することにより、心身障害者の保護者の不安を解消し、保護者死亡後の心身障害者の生活安定に寄与することを目的とし、以下の点に特に留意してその適正な実施及び繰越欠損金の発生防止に努める。

なお、当該事業における新規加入者数その他を次のとおり見込む。

(参考)

区 分	令和元事業年度
新規加入者数	923人
新規年金受給者数	1,665人
保険対象加入者数	64,588人
年金給付保険金支払対象障害者数	58,092人
死亡・障害保険金額	5,719,300千円
年金給付保険金額	13,619,250千円

(1) 財政状況の検証

平成30年度の決算を踏まえ、心身障害者扶養保険事業財務状況検討会（以下「財務状況検討会」という。）で財務状況の検証を行い、検証結果を報告書に取りまとめ、厚生労働省へ報告するとともに、機構ホームページで公表するなど関係者に対し広く周知する。

なお、検証の結果、将来的に当該事業の安定的な運営に支障が見込まれる場合には、厚生労働大臣に対しその旨を申し出る。

(2) 扶養保険資金の運用

① 基本的考え方

扶養保険資金の運用については、資金の特性を十分に踏まえ、厚生労働大臣の認可を受けた金銭信託契約に基づき、長期的な観点から安全かつ効率的に行うことにより、将来にわたって扶養保険事業の運営の安定に資することを目的として行うこととし、運用に関する基本方針（長期的に維持すべき資産構成割合（以下「基本ポートフォリオ」という。）を含む。）を、心身障害者扶養保険資産運用委員会（資産運用に精通した外部専門家により構成される組織をいう。以下「資産運用委員会」という。）の議を経た上で策定し、これに基づき適切に管理する。

また、各資産ともパッシブ運用を中心とし、各資産のベンチマーク収益率を確保するよう努める。

② 運用におけるリスク管理

基本ポートフォリオを適切に管理するため、資産全体の資産構成割合と基本ポートフォリオとの乖離状況を少なくとも月1回把握するとともに、必要な措置を講じる。

扶養保険資金について、運用受託機関への委託等により運用を行うとともに、運用受託機関等からの報告等に基づき、資産全体、各資産、運用受託機関等について、以下の方法によりリスク管理を行う。

- ・ 資産全体
資産全体のリスクを確認し、問題がある場合には適切な措置を講じる。
- ・ 各資産
各資産におけるリスク及びトラッキングエラーの状況等を把握し適切に管理する。
- ・ 運用受託機関等
運用受託機関等に対しガイドラインを示し、運用状況及びリスク負担の状況を把握するとともに、信用リスクの管理等を行い、適切に管理する。

なお、運用状況については、毎月実績報告を受け、ベンチマーク収益率との乖離状況を把握するとともに、年4回（四半期毎）ヒアリングを実施する。

③ 運用に関する基本方針の見直し

運用に関する基本方針の見直しについて資産運用委員会で検討し、必要があると認められるときは、速やかに見直しを行い、公表する。

④ 基本ポートフォリオの見直し及び年金給付のための流動性の確保

基本ポートフォリオの策定時に想定した運用環境が現実から乖離していないかなどについて、資産運用委員会で検証し、必要に応じて見直しを行う。

また、短期資産において、年金給付等に必要な流動性（現金等）を確保するとともに、効率的な現金管理を行う。

（参考）基本ポートフォリオ及び設定された乖離許容幅

区 分	基本ポートフォリオ	乖離許容幅
国内債券	74.5%	±8%
国内株式	8.5%	±5%
外国債券	8.5%	±5%
外国株式	8.5%	±5%

※上記資産の他、年金給付等に必要な流動性（現金等）を確保した短期資産を別途保有する。

⑤ 扶養保険事業に関する生命保険契約における運用実績等の検証

平成 30 年度の生命保険会社の決算報告等により各社の運用実績等を把握し、その内容を内部検証するとともに、外部有識者等からなる財務状況検討会において確認等の検証を行う。

(3) 事務処理等の適切な実施

扶養共済制度を運営する地方公共団体に対する事務担当者会議を開催し、地方公共団体と相互の連携を図るとともに、適切に事務処理を行うための留意事項の徹底等きめ細かに対応する。

また、地方公共団体等の意見を踏まえたパンフレット等を作成し、制度周知に努める。

(4) 扶養保険事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

- ・心身障害者及びその保護者に必要な情報が行きわたるよう、国、地方公共団体及び関係団体等との連携・協力による周知・広報活動を 15 回以上行う。

6 福祉保健医療情報サービス事業（WAM NET 事業）

WAM NET 事業については、福祉及び保健医療に関する情報システムの整備及び管理を行い、福祉保健医療関連の各種情報を幅広く総合的に提供していくとともに、独立行政法人という公的な主体が運営する信用力を活かし、「社会福祉法等の一部を改正する法律」（平成 28 年法律第 21 号）に基づく「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」及び「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律」（平成 28 年法律第 65 号）に基づく「障害福祉サービス等情報公表システム」の管理・運営を行うことなどにより、全ての利用者に対し福祉保健医療施策に関する一元的かつ正確な情報の基盤を提供することを目的とし、以下の点に特に留意してその適正な実施に努める。

(1) 福祉保健医療関連の各種情報を幅広く総合的に提供していくとともに、提供する情報の質の向上と利用者の利便性の向上に努める。

(2) 社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム及び障害福祉サービス等情報公表システムについては、安定的に運用するとともに、効率的に管理する。

(3) 福祉保健医療施策及び機構業務の効率的な実施を推進するため、WAM NET の活用を図る。

(4) WAM NET 事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

- ①提供情報の整備充実及び機能の見直しに関する取組を 5 件以上実施する。
- ②年間ヒット件数を 1 億 1,000 万件以上とする。

7 年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業

厚生年金保険制度及び国民年金制度に基づき支給される年金の受給権者並びに労働者災害補償保険制度に基づき支給される年金の受給権者に対し、その受給権を担保にして低利で小口の資金を貸し付けることにより、高齢者等の生活の安定を支援すること及び労災年金受給者の生活を援護することを目的として、その適正な事業実施に努める。

また、当該事業については、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）及び「年金担保貸付事業廃止計画」（平成 25 年 3 月厚生労働省策定）に基づいて、当該事業に関する周知状況を勘案した上で令和 3 年度末を目途に新規貸付を終了する国の方針に沿って、事業の廃止に向けた適切な措置を講じる。

なお、当該事業の実施にあたっては、以下の点に留意する。

(参考)

○年金担保貸付事業

区 分	令和元事業年度
貸付契約額	40,901,000 千円
資金交付額	40,901,000 千円

○労災年金担保貸付事業

区 分	令和元事業年度
貸付契約額	952,000 千円
資金交付額	952,000 千円

- (1) 年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業を安定的かつ効率的に運営するため、業務運営コストを分析し、その適正化を図り、事業の終了時期を見据えて損益が均衡するよう配慮しつつ、貸付金利に反映させる。
- (2) 年金受給者にとって無理のない返済となるように配慮した審査等を行うとともに、返済中に生活困難に陥った者に係る返済条件の緩和を行う。
- (3) 円滑に事業を終了する観点から、新規貸付終了時期及び利用可能な他制度等について、国と連携してホームページ、パンフレット等による周知や受託金融機関等の協力を得て利用者等への適切な対応を図るとともに、福祉関係団体、司法関係団体及び消費者関係団体などとの連携・協力による周知活動を行う。
なお、その際には、利用可能な他制度等について、各制度の対応窓口への相談につなげるための情報提供を行う。
また、受託金融機関の窓口等における利用者に対し、適切に対応するため、受託金融機関事務説明会等により指導を行う。

(4) 年金担保貸付事業及び労災年金担保貸付事業に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

- ・福祉関係団体、司法関係団体及び消費者関係団体など30団体以上との連携・協力による周知活動を行う。

8 承継年金住宅融資等債権管理回収業務

承継年金住宅融資等債権管理回収業務については、新規貸付の終了した年金住宅融資等債権の管理及び回収を行い、当該回収金の国への納付により年金給付の財源に寄与することを目的とし、以下の点に留意してその適正な実施に努める。

なお、業務承継時からの債権残高の減少状況を踏まえ、当該業務の終了を見据えた具体的な検討を行いつつ、安定的かつ効率的な業務実施に努める。

(1) 当該業務の終了を見据えた具体的な検討を行うため、業務運営コストの分析及び将来の収支状況の把握を進めるとともに、今後の課題の把握等に向けて、必要となる準備対応について国と調整を行う。

(2) 年金住宅融資等債権について、貸付先の財務状況等の把握及び分析、担保物件及び保証機関又は保証人の保証履行能力の評価等を適時に行うとともに、転貸債権に係る保証履行能力の把握及び分析、転貸法人等に対する必要な助言等を行うことにより、適切な債権管理に努める。

(3) 年金住宅融資等債権について、適時的確に回収を行うことにより、延滞債権の発生抑制に努める。

また、経済情勢の変化等に伴うローン返済困窮者及び災害の被災者等に対して、迅速かつ的確に必要な返済条件の変更措置を講じる。

(4) 延滞債権については、貸付先に対する迅速かつ着実な督促を実施するとともに、保証機関又は保証人に対する保証履行請求及び担保物件の処分等を適切に進めることにより、早期の債権回収に努める。

(5) 承継年金住宅融資等債権管理回収業務に関する評価について、以下の指標の達成を目指す。

- ・長期延滞債権については、経済環境の著しい変動がない限り、総件数に対して18%以上の回収処理を行う。

9 一時金支払等業務及び補償金支払等業務

旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律（平成31年法律第14号）に基づく一時金等及びハンセン病元患者家

族に対する補償金の支給等に関する法律（令和元年法律第55号）に基づく補償金の支払に当たっては、個人情報取扱いに特に配慮するとともに、事務費や基金残高の管理等を含め、国に対して毎月の支払状況等を報告するなど、国と密接な連携の上、業務の適切かつ迅速な実施に努める。

第2 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務・システムの効率化と情報化の推進

- (1) 業務の実施を効率的かつ安定的に支援するため、第4期中期計画期間における情報化推進計画に基づき、システム等の改善を図る。
- (2) 情報化の進展に機動的かつ的確に対応するため、情報システムに精通した人材を育成するための研修プログラムに基づく外部研修を活用するなど情報管理担当部署の専門性の向上を図る。
- (3) 業務の特性に応じて、当該業務に必要なITに関する技能の習得を推進するため、情報化統括責任者（CIO）補佐官及び情報管理担当部署等による職員研修等を計画的に実施する。

2 経費の節減

- (1) 質が高く効率的な業務運営を確保し、組織における資源を有効に活用するため、業務方法等を点検し、その改善等を図ることにより、事務の効率化を推進し、経費の節減に努める。
- (2) 公正かつ透明な調達手続による適切で、迅速かつ効果的な調達のため、「令和元年度調達等合理化計画」に基づき、一者応札等に対する取組を着実に実施する。
- (3) 運営費交付金を充当する一般管理費及び業務経費（いずれも人件費を除く。）については、中期計画の達成に向け、業務の質の確保に留意しつつ、より一層の業務運営の効率化を推進し、経費の節減に取り組む。

（注）貸付金に係る振込・口座振替手数料及び債権保全費、福祉医療経営指導事業に係る経費、社会福祉事業に関する調査研究、知識の普及及び研修に係る経費、退職手当共済事業に係る業務委託費及び退職手当給付金支給に係る振込手数料、システム関連経費、事務所借料関連経費、公租公課並びに特殊要因経費を除く。

役職員の給与水準については、政府の方針を踏まえ検証を行い、その検証結果や取組状況について公表する。

第3 予算、収支計画及び資金計画

1 予算

別表1-1～1-4のとおり

2 収支計画

別表2-1～2-4のとおり

3 資金計画

別表3-1～3-4のとおり

第4 短期借入金の限度額

1 限度額

95,500 百万円

2 想定される理由

- (1) 運営費交付金の受入れの遅延等による資金不足に対応するため。
- (2) 一般勘定において、貸付原資の調達遅延等による貸付金の資金不足に対応するため。
- (3) 年金担保貸付勘定及び労災年金担保貸付勘定において、貸付原資に充当するため。
- (4) 共済勘定において、退職者の増加等による給付費の資金不足に対応するため。
- (5) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費に対応するため。

第5 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

なし

第6 第5の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供しようとするときは、その計画

なし

第7 剰余金の使途

- ・ 全勘定に共通する事項
業務改善に係る支出のための原資
職員の資質向上のための研修等の財源

第8 その他業務運営に関する重要事項

機構において最適なガバナンスの更なる高度化を図るとともに、引き続き、「専門性の向上」と「業務間の連携強化」を図り、小回りのきく福祉、医療を支援する専門店として、次のような機構の事業全般にわたる共通の取組を実施する。

1 効率的かつ効果的な業務運営体制の整備

- (1) 政策動向や事業経営環境の変化を踏まえ、組織編成等の業務運営体制の見直しを行う。
- (2) トップマネジメントを補佐する経営企画会議等の効率的かつ効果的な運営を図り、理事長のリーダーシップが組織運営に反映される統制環境を維持・強化する。
- (3) 多岐にわたる事業を実施している機構の特長や専門性を活かし、業務間の連携を強化するとともに、職員の業務改革等に向けた取組を奨励し、業務改善活動の活性化を図ることにより、業務の効率的な運営を図る。
さらに、機構事業への理解・支持促進に資するための効果的な情報発信及び広報活動を行う。

2 内部統制の充実

- (1) 内部統制の更なる充実を図るため、内部統制基本方針等関係規程類を適時適切に見直し、整備するとともに、各種会議や研修等における指示の伝達等を通じて役職員で認識を共有する。
また、ガバナンス委員会や監査によるモニタリングを通じて内部統制の仕組みが有効に機能しているか点検・検証を行い、その結果を踏まえて当該仕組みが有効に機能するよう見直しを行う。
- (2) 政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準群を踏まえ、情報セキュリティポリシー等関係規程類を必要に応じて見直すとともに、サイバー攻撃への防御力及び組織的対応能力の強化に取り組む。
また、上記の対策の実施状況を把握し、PDCAサイクルにより情報セキュリティ対策の改善を図る。

第9 その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 職員の人事に関する計画

(1) 女性活躍や働き方改革を推進する観点から、育児・介護等との両立支援、ワーク・ライフ・バランスの推進などの各種人事施策を講じる。

(2) 福祉医療分野における金融業務機能等の強化を図る観点から、人材確保・育成に係る方針の策定について検討を行う。

また、担当業務に必要な知識・技術の習得、能力開発等を目的とした、より効果的な研修を実施するとともに、専門性を磨き、民間活動への支援の質を高めるため、若手職員の育成を目的とした福祉医療分野に関する専門研修、金融業務機能の強化のための研修や民間金融機関等との人事交流を引き続き行う。

2 施設及び設備に関する計画

なし

3 積立金の処分に関する事項

前期中期目標期間からの繰越積立金は、独立行政法人福祉医療機構法第12条第1項に定める業務の財源に充てることとする。

予算
令和元年度予算

別表1-1

(単位:百万円)

区 別	金 額									計
	一般勘定	共済勘定	保険勘定	年金担保 貸付勘定	労災年金担 保貸付勘定	承継債権管 理回収勘定	一時金支 払等勘定	補償金支 払等勘定		
収入										
運営費交付金	1,544	615	80							2,239
国庫補助金	952	27,578								28,530
社会福祉振興助成費補助金	608									608
子ども・子育て支援対策推進事業費補助金	230									230
障害者総合支援事業費補助金	114									114
給付費補助金		27,578								27,578
利子補給金	3,516									3,516
その他の政府交付金							11,842	17,571		29,413
福祉医療貸付事業収入										
福祉医療貸付金利息	37,540									37,540
経営指導事業収入	52									52
福祉保健医療情報サービス事業収入	4									4
社会福祉振興助成事業収入	11									11
退職手当共済事業収入		92,910								92,910
掛金		63,460								63,460
都道府県補助金		25,696								25,696
退職手当給付費支払資金戻入		3,750								3,750
雑収入		3								3
心身障害者扶養保険事業収入			31,197							31,197
保険料収入			7,190							7,190
保険金			10,319							10,319
特別給付金			69							69
弔慰金			0							0
扶養保険資金戻入			13,619							13,619
年金担保貸付事業収入										
年金担保貸付金利息				1,272						1,272
労災年金担保貸付事業収入										
労災年金担保貸付金利息					21					21
承継債権管理回収業務収入										
承継債権貸付金利息						14,764				14,764
寄附金収入	200									200
利息収入		0					1			1
雑収入	8	1	0	1	0		3	0	0	13
計	43,827	121,103	31,278	1,272	21	14,768	11,842	17,571		241,682
支出										
福祉医療貸付事業費	36,485									36,485
支払利息	36,384									36,384
業務委託費	27									27
債券発行諸費	74									74
東日本大震災復興福祉医療貸付事業費										
支払利息	44									44
社会福祉振興助成事業費	808									808
社会福祉振興助成金	608									608
子供の未来応援支援金	200									200
退職手当共済事業費		120,488								120,488
退職手当給付金		120,449								120,449
退職手当給付費支払資金繰入		39								39
心身障害者扶養保険事業費			31,197							31,197
支払保険料			7,190							7,190
年金給付保険金			13,619							13,619
弔慰金給付保険金			69							69
特別弔慰金給付金			0							0
扶養保険資金繰入			10,319							10,319
年金担保貸付事業費										
支払利息				990						990
業務委託費				7						7
債券発行諸費				948						948
労災年金担保貸付事業費				35						35
業務委託費					15					15
一時金支払金							10,914			10,914
補償金支払金								5,316		5,316
業務経費	2,056	361	21	79	3	1,149	139	62		3,871
福祉医療貸付業務経費	905									905
経営指導業務経費	202									202
福祉保健医療情報サービス業務経費	898									898
社会福祉振興助成業務経費	51									51
退職手当共済業務経費		361								361
心身障害者扶養保険業務経費			21							21
年金担保貸付業務経費				79						79
労災年金担保貸付業務経費					3					3
承継債権管理回収業務経費						1,149				1,149
一時金支払等業務経費							139			139
補償金支払等業務経費								62		62
一般管理費	251	33	10	20	1	49	19	7		390
人件費	2,032	221	73	180	4	289	95	37		2,931
計	41,676	121,103	31,302	1,269	22	1,487	11,167	5,422		213,448

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
令和元年度予算

別表1-2

(単位:百万円)

区 別	金 額					
	一 般 勘 定					
	福 祉 医 療 貸 付 事 業	福 祉 医 療 経 営 指 導 事 業	福 祉 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	社 会 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通	計
収入						
運営費交付金	543	219	65	88	628	1,544
国庫補助金			344	608		952
社会福祉振興助成費補助金				608		608
子ども・子育て支援対策推進事業費補助金			230			230
障害者総合支援事業費補助金			114			114
利子補給金	3,516					3,516
福祉医療貸付事業収入						
福祉医療貸付金利息	36,593	150	550		248	37,540
経営指導事業収入		52				52
福祉保健医療情報サービス事業収入			4			4
社会福祉振興助成事業収入				11		11
寄附金収入				200		200
雑収入	2	1	0	0	5	8
計	40,655	422	963	907	881	43,827
支出						
福祉医療貸付事業費	36,485					36,485
支払利息	36,384					36,384
業務委託費	27					27
債券発行諸費	74					74
東日本大震災復興福祉医療貸付事業費						
支払利息	44					44
社会福祉振興助成事業費				808		808
社会福祉振興助成金				608		608
子供の未来応援支援金				200		200
業務経費	905	202	898	51		2,056
福祉医療貸付業務経費	905					905
経営指導業務経費		202				202
福祉保健医療情報サービス業務経費			898			898
社会福祉振興助成業務経費				51		51
一般管理費					251	251
人件費	1,070	220	65	48	630	2,032
計	38,503	422	963	907	881	41,676

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
令和元年度予算

別表1-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
収入			
運営費交付金	615		615
国庫補助金			
給付費補助金		27,578	27,578
退職手当共済事業収入		92,910	92,910
掛金		63,460	63,460
都道府県補助金		25,696	25,696
退職手当給付費支払資金戻入		3,750	3,750
雑収入		3	3
利息収入	0		0
雑収入	1		1
計	615	120,488	121,103
支出			
退職手当共済事業費		120,488	120,488
退職手当給付金		120,449	120,449
退職手当給付費支払資金繰入		39	39
業務経費			
退職手当共済業務経費	361		361
一般管理費	33		33
人件費	221		221
計	615	120,488	121,103

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているため、端数において合計とは合致しないものがある。

予算
令和元年度予算

別表1-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
収入			
運営費交付金	80		80
心身障害者扶養保険事業収入		31,197	31,197
保険料収入		7,190	7,190
保険金		10,319	10,319
特別給付金		69	69
弔慰金		0	0
扶養保険資金戻入		13,619	13,619
雑収入	0		0
計	81	31,197	31,278
支出			
心身障害者扶養保険事業費		31,197	31,197
支払保険料		7,190	7,190
年金給付保険金		13,619	13,619
弔慰金給付保険金		69	69
特別弔慰金給付金		0	0
扶養保険資金繰入		10,319	10,319
業務経費			
心身障害者扶養保険業務経費	21		21
一般管理費	10		10
人件費	73		73
計	105	31,197	31,302

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているため、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
令和元年度収支計画

別表2-1

(単位:百万円)

区 別	金 額									計
	一般勘定	共済勘定	保険勘定	年金担保 貸付勘定	労災年金担 保貸付勘定	承継債権管 理回収勘定	一時金支 払等勘定	補償金支 払等勘定		
費用の部	47,679	121,374	21,086	1,294	22	1,472	11,268	5,513		209,708
經常費用	45,404	121,120	20,991	1,294	22	1,472	11,268	5,513		207,083
福祉医療貸付業務費	40,645									40,645
借入金利息	34,247									34,247
債券利息	2,282									2,282
債券発行諸費	74									74
業務委託費	27									27
福祉医療貸付業務経費	880									880
貸倒引当金繰入	3,135									3,135
経営指導業務費										
経営指導業務経費	197									197
福祉保健医療情報サービス業務費										
福祉保健医療情報サービス業務経費	896									896
社会福祉振興助成業務費	855									855
社会福祉振興助成費	608									608
子供の未来応援支援費	200									200
社会福祉振興助成業務経費	47									47
退職手当共済業務費		120,806								120,806
退職手当給付金		120,449								120,449
退職手当共済業務経費		357								357
心身障害者扶養保険業務費			20,898							20,898
支払保険料			7,190							7,190
給付金			13,688							13,688
心身障害者扶養保険業務経費			20							20
年金担保貸付業務費				1,085						1,085
借入金利息				6						6
債券利息				2						2
債券発行諸費				35						35
業務委託費				957						957
年金担保貸付業務経費				76						76
貸倒引当金繰入				9						9
労災年金担保貸付業務費					18					18
業務委託費					15					15
労災年金担保貸付業務経費					3					3
貸倒引当金繰入					0					0
承継債権管理回収業務費										
承継債権管理回収業務経費						1,124				1,124
一時金支払等業務費							11,053			11,053
一時金支払金							10,914			10,914
一時金支払等業務経費							139			139
補償金支払等業務費								5,378		5,378
補償金支払金								5,316		5,316
補償金支払等業務経費								62		62
一般管理費	237	31	10	19	1	46	19	7		370
減価償却費	331	38	2	10	0	13				395
人件費	2,241	244	81	180	4	288	197	127		3,362
臨時損失	2,275	254	96							2,625
退職手当給付費支払資金繰入		39								39
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入	129	15	5							148
会計基準改訂に伴う退職給付費用	2,147	200	91							2,438
収益の部	47,227	121,374	23,641	1,325	22	14,712	11,268	5,513		225,083
運営費交付金収益	1,544	615	80							2,239
福祉医療貸付事業収入	38,173									38,173
経営指導事業収入	52									52
福祉保健医療情報サービス事業収入	4									4
社会福祉振興助成事業収入	11									11
退職手当共済事業収入		63,463								63,463
掛金		63,460								63,460
雑益		3								3
心身障害者扶養保険事業収入			18,605							18,605
受取保険料			7,190							7,190
保険金			10,388							10,388
金銭の信託運用益			1,027							1,027
年金担保貸付事業収入				1,316						1,316
労災年金担保貸付事業収入					22					22
承継債権管理回収事業収入										
年金住宅資金等貸付金利息						14,677				14,677
補助金等収益	4,468	53,274					354	196		58,293
国庫補助金収益		27,578								27,578
都道府県補助金収益		25,696								25,696
社会福祉振興助成費補助金収益	608									608
子ども・子育て支援対策推進事業費補助金収益	230									230
障害者総合支援事業費補助金収益	114									114
利子補給金収益	3,516									3,516
その他の政府交付金収益							354	196		551
旧優生保護法一時金支払基金預り金取崩益							10,914			10,914
ハンセン病患者家族補償金支払基金預り金取崩益								5,316		5,316
寄附金収益	200									200
資産見返運営費交付金戻入	282	32	0	0	0	1				316
賞与引当金見返に係る収益	129	15	5							148
退職給付引当金見返に係る収益	85	9	3							97
財務収益										
受取利息		0					0			0
雑益	3	0	0	0	0	2				6
臨時利益	2,275	3,965	4,948				31			11,219
貸倒引当金戻入益							31			31
退職手当給付費支払資金戻入益		3,750								3,750
心身障害者扶養保険責任準備金戻入益			4,852							4,852
賞与引当金見返に係る収益	129	15	5							148
退職給付引当金見返に係る収益	2,147	200	91							2,438
前中期目標期間繰越積立金取崩額				9	1					9
総利益又は総損失(△)	△ 452	-	2,555	31	-	13,241	-	-		15,375

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
令和元年度収支計画

別表2-2

(単位:百万円)

区 別	金 額						
	一 般 勘 定						
	福 社 医 療 貸 付 事 業	福 社 医 療 経 営 指 導 事 業	福 社 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	医 社 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通	計	
費用の部	43,128	707	1,225	966	1,653	47,679	
經常費用	41,930	461	1,152	912	948	45,404	
福祉医療貸付業務費	40,645					40,645	
借入金利息	34,247					34,247	
債券利息	2,282					2,282	
債券発行諸費	74					74	
業務委託費	27					27	
福祉医療貸付業務経費	880					880	
貸倒引当金繰入	3,135					3,135	
経営指導業務費							
経営指導業務経費		197				197	
福祉保健医療情報サービス業務費							
福祉保健医療情報サービス業務経費			896			896	
社会福祉振興助成業務費				855		855	
社会福祉振興助成費				608		608	
子供の未来応援支援費				200		200	
社会福祉振興助成業務経費				47		47	
一般管理費					237	237	
減価償却費	105	22	184	4	16	331	
人件費	1,180	242	72	53	695	2,241	
臨時損失	1,198	246	73	54	705	2,275	
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入	68	14	4	3	40	129	
会計基準改訂に伴う退職給付費用	1,130	232	69	51	665	2,147	
収益の部	42,676	707	1,225	966	1,653	47,227	
運営費交付金収益	543	219	65	88	628	1,544	
福祉医療貸付事業収入	37,226	150	550		248	38,173	
経営指導事業収入		52				52	
福祉保健医療情報サービス事業収入			4			4	
社会福祉振興助成事業収入				11		11	
補助金等収益	3,516		344	608	608	4,468	
社会福祉振興助成費補助金収益				608		608	
子ども・子育て支援対策推進事業費補助金収益			230			230	
障害者総合支援事業費補助金収益			114			114	
利子補給金収益	3,516					3,516	
寄附金収益				200		200	
資産見返運営費交付金戻入	80	17	182	0	3	282	
賞与引当金見返に係る収益	68	14	4	3	40	129	
退職給付引当金見返に係る収益	45	9	3	2	26	85	
雑益					3	3	
臨時利益	1,198	246	73	54	705	2,275	
賞与引当金見返に係る収益	68	14	4	3	40	129	
退職給付引当金見返に係る収益	1,130	232	69	51	665	2,147	
総利益又は総損失(△)	△ 452	-	-	△ 0	△ 0	△ 452	

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
令和元年度収支計画

別表2-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
費用の部	885	120,488	121,374
経常費用	671	120,449	121,120
退職手当共済業務費	357	120,449	120,806
退職手当給付金		120,449	120,449
退職手当共済業務経費	357		357
一般管理費	31		31
減価償却費	38		38
人件費	244		244
臨時損失	215	39	254
退職手当給付費支払資金繰入		39	39
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入	15		15
会計基準改訂に伴う退職給付費用	200		200
収益の部	885	120,488	121,374
運営費交付金収益	615		615
退職手当共済事業収入		63,463	63,463
掛金		63,460	63,460
雑益		3	3
補助金等収益		53,274	53,274
国庫補助金収益		27,578	27,578
都道府県補助金収益		25,696	25,696
資産見返運営費交付金戻入	32		32
賞与引当金見返に係る収益	15		15
退職給付引当金見返に係る収益	9		9
財務収益			
受取利息	0		0
雑益	0		0
臨時利益	215	3,750	3,965
退職手当給付費支払資金戻入		3,750	3,750
賞与引当金見返に係る収益	15		15
退職給付引当金見返に係る収益	200		200
総利益又は総損失(△)	-	-	-

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

収支計画
令和元年度収支計画

別表2-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
費用の部	208	20,878	21,086
経常費用	113	20,878	20,991
心身障害者扶養保険業務費	20	20,878	20,898
支払保険料		7,190	7,190
給付金		13,688	13,688
心身障害者扶養保険業務経費	20		20
一般管理費	10		10
減価償却費	2		2
人件費	81		81
臨時損失	96		96
会計基準改訂に伴う賞与引当金繰入	5		5
会計基準改訂に伴う退職給付費用	91		91
収益の部	184	23,457	23,641
運営費交付金収益	80		80
心身障害者扶養保険事業収入		18,605	18,605
受取保険料		7,190	7,190
保険金		10,388	10,388
金銭の信託運用益		1,027	1,027
資産見返運営費交付金戻入	0		0
賞与引当金見返に係る収益	5		5
退職給付引当金見返に係る収益	3		3
雑益	0		0
臨時利益	96	4,852	4,948
心身障害者扶養保険責任準備金戻入		4,852	4,852
賞与引当金見返に係る収益	5		5
退職給付引当金見返に係る収益	91		91
総利益又は総損失(△)	△ 24	2,579	2,555

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
令和元年度資金計画

別表3-1

(単位:百万円)

区 別	金 額								
	一般勘定	共済勘定	保険勘定	年金担保貸付勘定	労災年金担保貸付勘定	承継債権管理回収勘定	一時金支払等勘定	補償金支払等勘定	計
資金支出	626,684	121,741	31,313	63,910	3,371	90,069	11,842	17,571	966,502
業務活動による支出	358,476	121,064	20,983	42,170	974	78,427	11,167	5,422	638,682
福祉医療貸付事業費	36,528								36,528
福祉医療貸付金による支出	316,800								316,800
社会福祉振興助成金による支出	608								608
子供の未来応援支援金による支出	200								200
退職手当共済事業費		120,449							120,449
心身障害者扶養保険事業費			20,878						20,878
年金担保貸付事業費				990					990
年金担保貸付金による支出				40,901					40,901
労災年金担保貸付事業費					15				15
労災年金担保貸付金による支出					952				952
一時金支払金による支出							10,914		10,914
補償金支払金による支出								5,316	5,316
人件費支出	2,032	221	73	180	4	289	95	37	2,931
その他の業務支出	2,307	394	32	99	4	1,227	158	69	4,290
国庫納付金の支払額						76,911			76,911
投資活動による支出									
金銭の信託の増加による支出			10,319						10,319
財務活動による支出				21,500					21,500
長期借入金の返済による支出	256,184			6,500					262,684
債券の償還による支出	10,000			15,000					25,000
翌年度への繰越金	2,024	677	11	240	2,397	11,643	675	12,149	29,816
資金収入	626,684	121,741	31,313	63,910	3,371	90,069	11,842	17,571	966,502
業務活動による収入	311,653	117,353	17,659	39,978	920	71,954	11,842	17,571	588,930
福祉医療貸付事業収入	37,540								37,540
福祉医療貸付回収金による収入	267,825								267,825
経営指導事業収入	52								52
福祉保健医療情報サービス事業収入	4								4
社会福祉振興助成事業収入	11								11
退職手当共済事業収入		63,463							63,463
心身障害者扶養保険事業収入			17,578						17,578
年金担保貸付事業収入				1,272					1,272
年金担保貸付回収金による収入				38,706					38,706
労災年金担保貸付事業収入					21				21
労災年金担保貸付回収金による収入					900				900
承継債権管理回収業務収入						14,764			14,764
承継融資業務収入						57,186			57,186
運営費交付金収入	1,544	615	80						2,239
補助金等収入	4,468	53,274							57,742
寄附金収入	200								200
その他の業務収入	8	1	0	1	0	4	0	0	13
投資活動による収入		3,700	13,619			4,500			21,819
定期預金の払戻による収入						4,300			4,300
金銭の信託の減少による収入			13,619						13,619
有価証券の償還による収入		3,700				200			3,900
財務活動による収入	313,100			23,700					336,800
長期借入れによる収入	293,100			7,700					300,800
債券の発行による収入	20,000			16,000					36,000
前年度よりの繰越金	1,931	688	35	232	2,451	13,616	-	-	18,952

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入にしているため、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
令和元年度資金計画

別表3-2

(単位:百万円)

区 別	金 額					
	一 般 勘 定					
	福 社 医 療 貸 付 事 業	福 社 医 療 経 営 指 導 事 業	福 社 保 健 医 療 情 報 サ ー ビ ス 事 業	社 会 福 祉 振 興 助 成 事 業	共 通	計
資金支出	621,487	422	963	907	2,905	626,684
業務活動による支出	355,303	422	963	907	881	358,476
福祉医療貸付事業費	36,528					36,528
福祉医療貸付金による支出	316,800					316,800
社会福祉振興助成金による支出				608		608
子供の未来応援支援金による支出				200		200
人件費支出	1,070	220	65	48	630	2,032
その他の業務支出	905	202	898	51	251	2,307
財務活動による支出	266,184					266,184
長期借入金の返済による支出	256,184					256,184
債券の償還による支出	10,000					10,000
翌年度への繰越金					2,024	2,024
資金収入	621,580	422	963	907	2,812	626,684
業務活動による収入	308,480	422	963	907	881	311,653
福祉医療貸付事業収入	36,593	150	550		248	37,540
福祉医療貸付回収金による収入	267,825					267,825
経営指導事業収入		52				52
福祉保健医療情報サービス事業収入				4		4
社会福祉振興助成事業収入				11		11
運営費交付金収入	543	219	65	88	628	1,544
補助金等収入	3,516		344	608		4,468
寄附金収入				200		200
その他の業務収入	2	1	0	0	5	8
財務活動による収入	313,100					313,100
長期借入れによる収入	293,100					293,100
債券の発行による収入	20,000					20,000
前年度よりの繰越金					1,931	1,931

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているため、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
令和元年度資金計画

別表3-3

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	共 済 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
資金支出	748	120,993	121,741
業務活動による支出	615	120,449	121,064
退職手当共済事業費		120,449	120,449
人件費支出	221		221
その他の業務支出	394		394
翌年度への繰越金	133	544	677
資金収入	748	120,993	121,741
業務活動による収入	615	116,738	117,353
退職手当共済事業収入		63,463	63,463
運営費交付金収入	615		615
補助金等収入		53,274	53,274
その他の業務収入	1		1
投資活動による収入			
有価証券の償還による収入		3,700	3,700
前年度よりの繰越金	133	555	688

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

資金計画
令和元年度資金計画

別表3-4

(単位:百万円)

区 別	金 額		
	保 険 勘 定		
	業 務 経 理	給 付 経 理	計
資金支出	115	31,197	31,313
業務活動による支出	105	20,878	20,983
心身障害者扶養保険事業費		20,878	20,878
人件費支出	73		73
その他の業務支出	32		32
投資活動による支出			
金銭の信託の増加による支出		10,319	10,319
翌年度への繰越金	11		11
資金収入	115	31,197	31,313
業務活動による収入	81	17,578	17,659
心身障害者扶養保険事業収入		17,578	17,578
運営費交付金収入	80		80
その他の業務収入	0		0
投資活動による収入			
金銭の信託の減少による収入		13,619	13,619
前年度よりの繰越金	35		35

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。